

「学校でこそ！」子どもたちを守る環境づくりを



明星子どもの環境を考える会 吉村秀一

「明星子どもの環境を考える会」は、三鷹市にある明星学園（小中高）で、東電福島第一原発事故後に、保護者によって作られた会です。事故後の放射線の汚染や子どもたちの健康への影響を心配し、対応したいと、集った人たちによって運営されてきました。

主な活動として、学校内の空間線量や土壌の測定、定期的な勉強会の開催などを続けています。勉強会や測定会は、保護者に加え先生方も参加し、保護者と学校がともに子どもたちの環境について考える会となっています。2011年に測定を始め、排水溝などの汚染度の高い箇所では、汚染土の除去が行われました。最終的には、“よりよい環境を”と、子どもたちの遊び学ぶ小中学校の庭やグラウンドのすべての土を入れ替えることができました。勉強会は、放射線の基礎知識や、健康影響、食品の汚染状況など、様々なテーマを選び、講師をお招きして行っています。ちくりん舎の青木さんには、二度にわたりお出でいただき、貴重なお話を伺うことができました。また、会のメンバーの家族らの尿検査もお願いして、データの詳細な見方についてもレクチャー頂きました。本当にありがとうございます！

「学校でこうした会を持てるなんて」と驚かれることがあります。それには、明星学園が、伝統的に「思うことは言っている」という空気に満たされた場所であったことも大きいと思います。

事故直後から、本来なら、真っ先に反応してもよいはずと思えた多くの学校、PTA、地域の行政、医療の場が、沈黙していく様は信じ難いものでした。原発事故による汚染の問題が、メディアの世界以上に、私たちが囲むコミュニティにおいて、タブー視され、沈黙していく光景に、気持ち悪さを感じました。

そんな中で「学校でこそ！」という想いも、この会を開く際にあっただけです。私たちの活動は、おそらく、先述した明星学園の空気に支えられたものであるかもしれません。しかし、私の知人には、そうした空気の薄いところで、学校やPTA、行政に声を発している人たちも多くいます（東京にも、福島にも）。そうした人たちの行動には本当に頭が下がります。

様々なコミュニティにおいて、子どもたちの健康や環境のことくらい（そんな大切なことくらい！）は、自由に語り合えることが“あたりまえ”のこととなるよう、今、一人一人が、あるいは仲間同士が、沈黙することなく、声を発し続けることが大切だなあ、と感じています。

「学校でこそ！」が「特別」なことではなく、「スタンダード」である社会を望みます。

私たちの勉強会は、明星学園の保護者に限らず、想いを同じにする人たちにもご参加いただいています。shushushu1111@gmail.com までご連絡いただければメーリングリストに登録の上、お知らせを送らせていただきます。